

イエスはまなり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 170号

## 「キリストの平和」

島 隆三



「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。」(コロサイ3・15)

私たちの教会の新年の聖句です。私たちの心が主の平和に支配される一年であるように祈っています。「平和が心を支配する」というとき、主イエスがガリラヤ湖で嵐に見舞われても少しも動揺せず、あわてふためく弟子たちの不信仰を叱られた場面を思い起こします(マタイ8・23以下)。この主の平安は、御父への全き信頼の表れです。

しかし、主御自身も「心を騒がせた」ことがヨハネ福音書には3度記されています。一つはラザロの死に直面した周囲の者の嘆きを見て(11・33、心を騒がせ〈口語訳〉)、次は御自身の十字架の死を受け入れるとき(12・27)、第三は、愛する弟子の裏切りを前にして(13・21)。

ですから、主イエスは私たちの弱さに同情できない方ではなく、御自身がその弱さをよく知り、御父の支えを親しく経験されたからこそ、「心を騒がせるな」と命じ、「神に信頼せよ」と語って下さるのです。(ヘブライ2・18、4・15)。

平和についてさらに根源的なことがあります。それは、「神との平和」です。「わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ている」(ロマ5・1)。神から遠く離れ、神に敵対していた者が、主イエス・キリストの十字架による罪の贖いのゆえに神との平和を与えられ、「アッバ、父よ」と呼ぶ御子の霊をも与えて頂いたのです。ここに真の心の平和の拠り所があります。主イエスが弟子たちと別れるに際して、あなたがたに助け主なる聖霊を与えると繰り返し語り、それに続いて「わたしは平和をあなた方に残し、わたしの平和を与える」(ヨハネ14・27)と言われたのは、そのような根源的平和のことを言われたに相違ありません。罪の問題が解決されない以上、それに付随するすべてのことをただ先送りしているのです。そして、そのうちに何とかなるという楽観主義でごまかしても、本当にそうなるのでしょうか。「罪が支払う報酬は死です」(ロマ6・23)とあるとおり、罪の裁きとしての死が待っている以上、私たちには不安が残ります。あなたは死に対する勝利を得ているのでしょうか。それは主の十字架と復活を信じる信仰から来ます。主は弟子たちに、この根本的救いの道を拓いていくのだから「心を騒がせるな」と言われたのです。主の救いを感謝しましょう。

(仙台青葉荘教会牧師)

## 想 霊



### クリスチャンの自由の危険

(孤立の不可能性)

ローマ14・17、20

日本ホーリネス教団牧師

本部 安来

パウロはここでクリスト者の自由と、クリスト者の自由が乱用される危険とを取り上げている。特にユダヤ人にとって、クリスト者の自由は、その危険を持っていた。ユダヤ人の生活は、多くの法則や、規定に取り囲まれていた。沢山な不潔なものがあり、聖いものがあつた。多くの食べられない動物があり、それと同じように、潔いものがあつた。守られなければならない聖潔律法があつた。ユダヤ人がクリスト信仰に入った時、總ての些細な法則や、規定は一挙に廃棄されたと悟つた。そこで危険な事は、クリスト信仰を自分の好きな事は何でもできる。新しく発見された自由であると解釈する事であつた。クリスト者の自由とクリスト者の慈愛は両者相俟つて、いかなければならないことを記憶しな

ければならない。クリスト者の自由と、兄弟愛、及び、相互の思いやりはすべて共なるものであるという真理に堅く立たねばならない。パウロは読者にクリスト信仰と神の国とは、人が好きなものを飲んだり、食べたりする事にあるのではない事を思い起こさせている。それは三つの重大な大切な事柄である。

一つは義である。義は人と神に対して義務を果たす事にある。クリスト者生活に於いて隣人に対する第一の義務は憐れみと思ひやりである。

私達がクリスチャンに成る時、他者に対する感情は自己に対するよりも更に重要なものになる。クリスト信仰は他人をまず第一におき、自己を後におく事を意味する。私達は他者の立場を考ふるより、その状況よりも他者への批難が先行する。私達がクリスチャンになったら、義に対して義を果たす事になる。クリスト者生活に於いて隣人に対する第一の義務は憐れみと思ひやりである。クリスト信仰は他人を先ず第一におき、自己を最後に置く事を意味する。私達は、人に当然、腹を立てることのないよう、事をし尽くさないで自分の好きな事をする危険である。

第二は、平和である。新約聖書に於いて平和は何も問題の無い事を意味しない。クリスト信仰はもっぱら神と人に対する人格的関係にある。クリスト者の自由、拘束されない自由は隣人との正しい関係のうち平和に生きるクリスト者の義務によって条件づけられている。第三者は喜びである。クリスト信仰に於いて喜びは決して利己的な事柄では無い。自分自身を幸福にする事にあるのではなく、他者を幸福にする事にある。他人を不幸にするような幸福はクリスチャンの幸福でない。クリスチャンの喜びは他人を傷つけ他者の良心を傷つけるような、他人の感情を撫でるような自由はない。喜びは、クリスチャンにとつては他人に喜びをみたらす時にもみ来る。

## 証 「神との対話」

宝塚泉クリスト教会

櫻木 親房

母の家ホテルは御影の閑静な住宅地の中にあります。五階建ての礼拝堂のある豪華で立派なクリスト教会の年一回の聖会があり一泊二日で参加して来ました。昨年を引き続き二回目です。夜は8時から朝7時まで連鎖祈祷があります。今回は夜2時から4時近くまで一人で連鎖祈祷に参加して来ました。恵まれました。

神との対話が出来ます。この時間帯は誰もが嫌がって避けようとしません。しかしこの時間帯が最も恵まれます。昨年も私は夜2時から3時までの時間帯で連鎖祈祷をしました。連鎖祈祷は順番に一時交代で祈祷を密室で行うと云うしくみになっています。

二階の寝室を抜け出して一階の祈祷室に静かに歩いて行きます。そして自分の希望した時間帯で祈祷を一人ずつ交代して行きます。少し広目の祈祷室に入れば時計の秒針の刻む音しか聴こえません。カチカチと時計の音がやけに大きく聴こえます。閑静で落ち着いた建物の中にある祈祷室はそれほど静かです。ここで、ずーっと一人で神と対話をします。

夜の2時3時と云う時間帯は本当に静かです。一言の言葉を発する必要もありません。また言葉を発すれば心が妨害されます。言葉が耳に聴こえたと対話が成り立ちません。黙って独り神との対話をします。やはりこの神との対話は静寂の中で自分の霊と聖霊との交わりです。

言葉は不必要です。唯、唯、神に貴方は何故、この3次元のこの世界に私を送られたのですか。何を私にこの世に任命として与えられたのですか。と云う様な問いかけを延々と問い質して行くと云う。少し

てその回答を心に求めて行く神と対話する貴重な時間です。そう云う時間です。この時間帯は昔で云えば丑三つ時です。静かに黙想すると本当に心が高ぶってくる。心が高揚してこの心理状態を表現すると、この高揚した心の状態では自分と神しか存在しません。心が高ぶって来る内に神を畏怖する心情が湧き上がってきます。畏怖すると云う事は分かりますね。神を畏れると云う感情です。まさに神がそこまで手の届く処まで接近して来ています。そしてこの静かで神と自分しか居ないと云う時間がゆつたりと流れて行きます。静かに延々と時間が流れて行きます。これは心の中に聖霊が充満しているときです。そして対話は延々と続いて行きます。これほどの恵みはありません。何故こんなに恵まれる時間帯を他の方々は嫌がるか。あほな話です。これほどもつたいない事はありません。しかし私にとっては有難いです。こんな恵まれる時間を独占できる。私は2時からですから3時には祈祷室から帰ろうとしましたが次の方が来られませんか。そこで次の方が来られるまで3時半まで待ちました。そして3時40分に退出しました。

重な体験です。家でも何処でも可能な筈ですがやっぱり昼間に連鎖祈祷に入るまでに聖会でメッセージを聴いたりして心に準備が出来ているのでしよう。その後に連鎖祈祷です。このタイミングで連鎖祈祷は効果があります。昨年恵まれた。今年も同じ恵みがありました。一泊三食つきで八千円の会費は本当にリーズナブルです。どうぞ誰でも参加される事を望みます。来年は9月23日24日です。祈祷室で参加された方々のノートの記録を読むのも楽しみの一つです。今回の参力者は30名でした。

こう云う連鎖祈祷の喜び恵みはクリスチャンにしか味わえない有りがたい体験です。これが信仰の始まりであり終わりかも知れません。本来信仰はこれではなくてはなりません。御言葉も大事ですが、やっぱり信仰は 聖霊の充満 を体験して始めて全てがあると思います。私はこの 聖霊の充満 を誰もお勧めします。またこの聖霊の充満の中で祈った事は100%利かれます。祈りの極意でもあります。



### 第4回函館栄光キリスト教会

#### ミニ・アシラム報告

佐々木 雄次



当教会のミニ・アシラムは、一〇月七(日)、八日(月)、主題ルカ一章一三節「天の父は求める者に聖霊を与えてくださる」、助言者木部安来先生、参加者三二名(うち他教会からの参加六教会、一一名)で開催されました。今回で四回目となりますが、毎回日本アシラム連盟から助言者を派遣していただいております、そのご支援に心から感謝するものです。

初日は主日ですので、ほぼ教会員だけの参加ですが、御自分の教会の礼拝終了後においでくださった方や、わざわざ札幌からおいでくださった方もあり、二日目は他教会の兄弟が参加者の半数近くとなりました。わたしどもの教会は単立ということもあって、他教会との交流が少ないのですが、アシラムを通して助言者や他教会の先生、兄弟から教えていただくこと、励まされること、がとても多く、感謝しております。また、他教会の方も当教会のアシラムを楽しみにしてくださっており、一年ぶりにお会いして、御言葉と祈りを分かち合えるのはうれしく、楽しいことです。そのため教会員の諸兄弟はいつも数ヶ月前からアシラムを覚えて祈りつつ準備にあたっております。

さて、助言者の木部先生は、「聖霊は信仰者の生活を導き、悪い道から遠ざけてくださる」とお語りになりました。具体的なことはあまりお話しになりませんが、長年の信仰生活の中で聖霊の導きを深く感じ取られ、すべてのことに感謝されていることがよく分かりました。開心の時と祈りの細胞では、皆が心を開いて二ードを語り、折り合うことができました。静聴の時は、一日目、ルカ一章一節〜一三節、二日目、ガラテヤ五章一三節〜六章一〇

節を黙読し、二日目には、分かち合  
いもされました。「聖霊に導かれて  
自己吟味がなされる時、思いが変え  
られ、互いに赦し合い、重荷を担い  
合うことが可能になる」と言う発言  
が心に残っています。また、初日の  
証しと賛美の時もよい証し、豊かな  
賛美がなされたほか、リラックス体  
操や詩吟などもあり、楽しいもので  
した。締めくくりの充滿の時には、  
多くの方が証しされましたが、長く  
信仰生活を続けてきた八十代の方た  
ちが次々に力強い証しをされ、集う  
者一同うち満ちた思いで散会いたし  
ました。

第46回関西アシラム報告

脇田 真一

二〇一二年一〇月七日(日)午  
後三時〜八日(月・祝)午後二時ま  
で、神戸市東灘区御影町の「母の家  
ホテル」で、第四六回関西アシラ  
ムが開催された。定刻までにほぼ  
全員が揃って、開会の祈りの時を迎  
えた。参加は十七教会、三十名(信  
徒十五名、教職十五名)であった。  
主題は「御霊の啓導と充滿」、主題  
聖句は「神の霊によって導かれる者  
は皆、神の子なのです。」(ロマ八章  
十四節)とあなたがたの上に聖霊が  
降ると、あなたがたは力を受ける。



そして：わたしの証人となる。」(使  
徒一章八節)である。七日(日)の「開  
会の祈り」小島十二師が担当し、「開  
心の時」の開始時間が遅れたので、  
その間、参加者の自己紹介と今回の  
集会にどのような課題をもって臨ん  
でいるかの報告があり、その後「開  
心の時」は辻中昭一師が担当した。  
今回は特別に助言者として横山義孝  
師(日本基督教団東京新生教会協力  
牧師)を招き、同師が「福音の時」、  
八日の「朝の祈り」「充滿の時」を  
すべて担当してくださった。なお、  
一〇日(月)「静聴・分かち合い」  
は平方美代子師が担当した。  
助言者の横山師は、「福音の時」  
の中で、聖霊の啓導を頂くことがキ

リスト者の最大の特権であり祝福で  
あるとし、罪の告白による赦しと主  
の約束への信頼、御言葉への聴従と  
実践に励むことを勧められた。

また、「朝の祈り」では、タイタ  
ス師の小冊子から、聖霊のお働きに  
ついて説き明かされた。実に私たち  
の体が聖霊の宮であり、聖霊を悲し  
ませてはならず、聖霊に明け渡す生  
活をしようではないかと、助言者自  
らの証しを交えて熱く語られた。

最後の「充滿の時」主に自分を  
委ね、全く明け渡す無条件の生涯こ  
そ、聖霊の充滿の秘訣であり実であ  
ることを、スタンレージョーンズ師  
の著書を引用し勧められた。

三回にわたりなされた、助言者  
の信仰と地に足のついたたくましい  
伝道・牧会に根差したわかりやすく  
あたたかい勧めに、私たちは深い慰  
めと強い励ましを受けた。新来会者  
からもとても良い集会に参加でき、  
良かったとの感謝の言葉を頂いた。  
来年もぜひ参加したいとの声もあ  
り、神に栄光を帰して集会を閉じる  
ことができ深く感御している。  
全国の主にある兄弟姉妹のお祈  
りに感謝します。

地区アシラム予告

●第42回城北アシラム

とき 13年2月11日(月)

午前10時〜午後4時45分

ところ 日本ホーリネス教団

池の上教会

助言者 千代崎備道師

他諸教師

●第20回東京新生教会アシラム

とき 13年2月16日(土)〜17日(日)

助言者 横山基生師

立証者 皆川時男兄

(西川口教会員)

クリスマスと

新年にあたり

各位の上に祝福を

祈りあげます。(Y・Y)



〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6  
池の上キリスト教会内  
日本クリスチャン・アシラム連盟  
振替口座 東京〇一〇〇一四五五八